

(仮称)和倉温泉創造的復興プラン

中間とりまとめ

2024.11.28

この和倉温泉の未来を描く「**和倉温泉創造的復興プラン（中間発表）**」は、2月に策定した「和倉温泉創造的復興ビジョン」を具体化するため、若手の旅館や商店経営者が毎月議論を重ね、さまざまな共創プロジェクトを実施して作成したものです。

和倉温泉は、穏やかな七尾湾に面し、**国内でも珍しい海水温泉を誇る歴史ある温泉地**です。昭和期には大型旅館が立ち並び、館内でお客様のニーズを完結できる利便性が特徴でした。しかし、近年は団体客から個人客へのニーズの変化やインバウンド対応の遅れにより、**まちのにぎわいが失われつつ**あります。

そこで、能登半島地震で被害を受けた和倉温泉の復興を、「和倉温泉のあるべき姿」に向けたチャンスと捉え、温泉文化を継承し、次代を担う子供たちにつないでいく、**未来に向けた希望と強い決意を込めた「フロートビジョン」**を描きました。

このフロートビジョンは「なぜやるか（WHY）」「何を（WHAT）」「どこでやるか（WHERE）」に重点を置いた将来像であり、地域の皆さんとこの未来像を共有し、行政と民間の連携を進め、地域内外からともに関わりたい人、投資したい人に向けた価値や魅力的なシーンを描く提案です。

完全な復興には10年以上を要するかもしれませんが、この中間とりまとめの後、**行政（国、県、市）が何をやるべきか、旅館や個々の事業者が何をすべきか、興味を持ってくれそうな人は誰かなどを具体的に検討するフェーズ**に入ります。

和倉温泉が本来有している資源や価値を再認識し、一緒に和倉温泉の新たな未来を創りましょう。

〇経緯

令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被災した和倉温泉は、2040年を目標年に『「和倉温泉」創造的復興ビジョン(以下、創造的復興ビジョン)』を策定しました(令和6年2月、「和倉温泉」創造的ビジョン策定会議)。本ビジョンは、ワーキング委員会(4回)と勉強会(4回)を通して目標像(コンセプト)「能登の里山里海を“めぐるちから”に。和倉温泉」を定め、課題やコンセプトに基づいた6つの基本方針を提示しています。

令和6年6月23日、復興のビジョン実現に向けて議論をする場として和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会(図.2)を立ち上げ、(仮称)和倉温泉復興プランの策定に向けた議論を進めています。



図1. 和倉温泉の目標像(コンセプト)と6つの基本方針(創造的復興ビジョンP.14-15)

〇(仮称)和倉温泉復興プランの位置付け

復興まちづくり推進のためのたたき台(≠行政計画)

次代を担う若手経営者が中心となりとりまとめる(仮称)和倉温泉復興プランは、復興まちづくり推進に向けた民間協議会による提案です。今後、和倉温泉の復興まちづくりに向けた議論のたたき台として行政機関との対話を行い、プロジェクトの具体化に向けて取り組みことを前提としています。

〇(仮称)和倉温泉復興プラン策定の目的

1. 復興まちづくりのイメージ共有

創造的復興ビジョンを深度化し、小学生から大人まで広くアイデアを募りながら、将来の和倉温泉の具体的な姿を視覚的に表現して共有していくこと

2. 地元の復興まちづくりにむけた関係構築

地元メンバーが能動的に地域にかかわる方法や、復興プランの提案を通じて関係者間のコミュニケーションを通じて、実現化に向けた関係構築を図ること

3. 復興まちづくりにおける官民連携の道標

民間主体の提案をベースにしつつも、復興まちづくりにおける官民の役割分担を想定し、今後の復興まちづくりのたたき台とすること

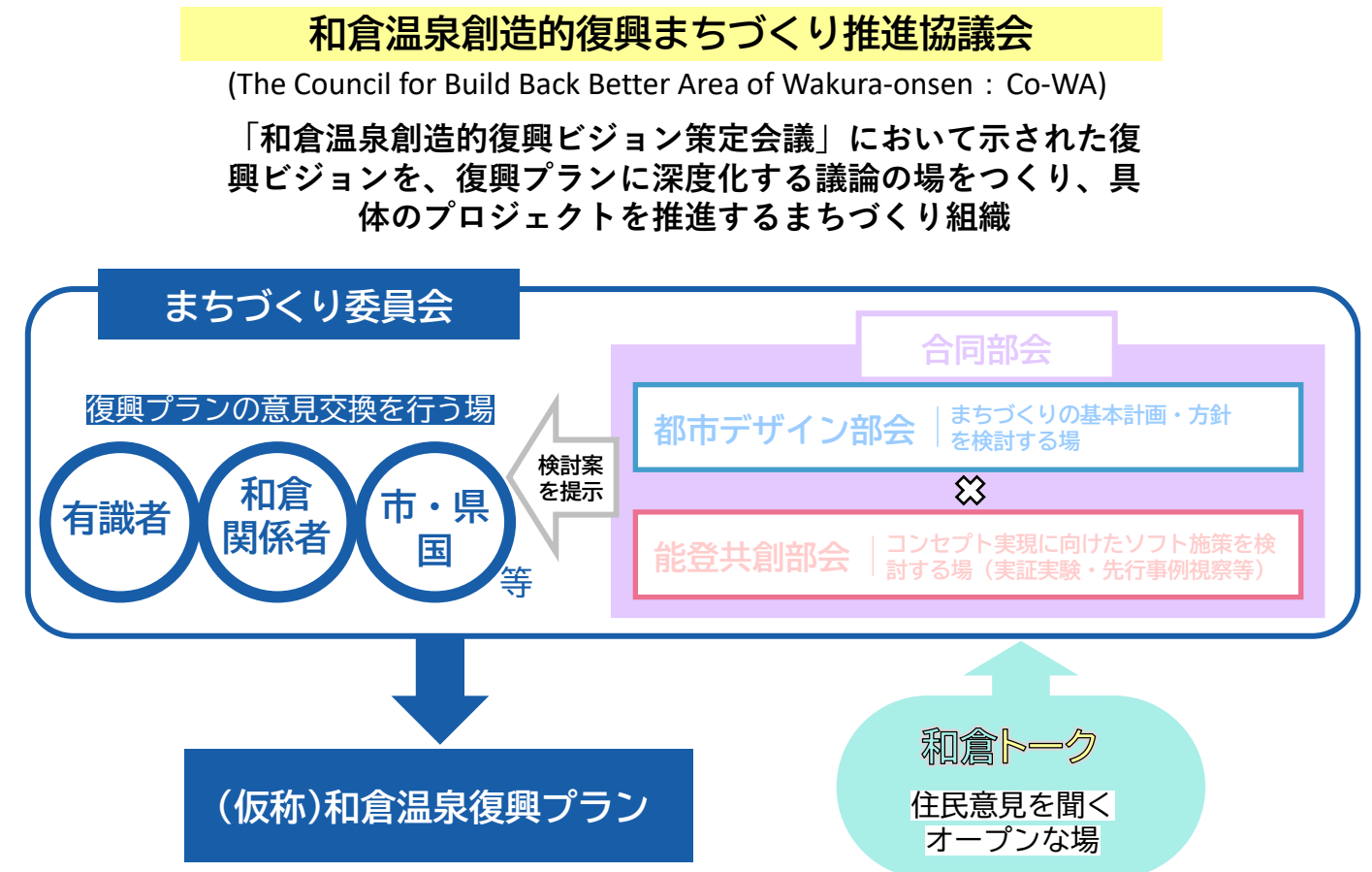


図2. (仮称)和倉温泉復興プラン策定に向けた検討体制

02 和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会の取組

◆「合同部会」と「和倉トーク」の両輪で、2024年度内の(仮称)和倉温泉復興プラン策定に向けた対話を積み重ねています。

合同部会 | 復興プランの意見交換を行う場

01

6.23



第1回
まちづくり委員会

協議会設立

02

6.28



第1回
合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

課題のすり合わせ
・課題の整理
・ポテンシャルの整理

03

7.29



第2回
合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

景観方針
・基本方針
・都市デザイン方針
・エリアのアクティビティイメージ

04

8.26



第3回
合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

基本方針と取組
主要拠点のアイデア
・6つの基本方針と取組
・主要施設周辺の取組アイデア

05

9.24



第4回
合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

主要拠点の
将来イメージの
すり合わせ
・主要拠点の将来イメージ

06

10.28



第5回
合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

ゾーニングの考え方と
まち全体のつながり
・ゾーニングと動線
・主要施設の将来イメージ

07

11.25



第6回
合同部会
都市デザイン部会
能登共創部会

主要なプロジェクトについて/
共創部会での取組との連携

01

7.20



第1回 和倉トーク
「和倉のすきなところ、
もっとよくしたいところ」

02

8.17



第2回 和倉トーク
「災害に強い街づくりを
考えよう」

03

9.21



第3回 和倉トーク
「温泉のある街の暮らしを
考える」

04

10.19



第4回 和倉トーク
「和倉らしい子育てを考
えよう」

05

11.15



第5回 和倉トーク
「海外へ向けた和倉の観光
を考える」

和倉トーク | 住民意見を聞くオープンな場

03 能登共創部会の取組

◆コンセプト実現に向けて、ソフト面での施策を検討・実施しています。

シビックプライドの醸成 ※シビックプライド：地域体に対する誇りや愛着

中学校・小学校トーク：若者の意見を取り入れる場

中学校トーク
 日付：2024年10月4日(金)
 時間：10:00-12:00
 会場：能登香島中学校 体育館
 参加者：58名



小学校トーク
 日付：2024年10月23日(金)
 時間：13:10-14:45
 会場：和倉小学校 体育館
 参加者：45名



新しい和倉の滞在モデル実証事業

復興めぐる市：旅館の物品をフリマ形式で出品

日付：2024年11月3日(日) 11:00-16:00
 会場：お祭り会館1F
 ⇒3地域が連携 来場者1045名



まちづくりDrinks 和倉のまちについて楽しく話す



オーラルヒストリー調査：地域の想いをくみ上げ 日付：2024年9月3日(火)-5日(木)



熊本・長崎への脱炭素先行事例視察・報告 日付：2024年10月15日(火)-17日(木)



新しいことが生まれる場づくり

能登との連携〈和倉HUB構想〉

サステナブルな和倉エリアの創出

能登共創部会の取組

和倉の新しい滞在モデル実証事業
シビックプライドの醸成
能登との連携〈和倉HUB構想〉
サステナブルな和倉エリアの創出
新しいことが生まれる場づくり

和倉の新しい滞在モデル実証事業

- ◆ 1月3日(日)にお祭り会館で「和倉復興めぐる市」を開催。旅館から出る備品や器を販売する蚤の市イベント。
地域連携への取り組み⇒うますぎ一本杉や能登島クラフトフェアと同日開催 滞在形態の工夫⇒飲食ブース、キッチンカー
各種新聞・ニュースに取り上げられた。来場者1045名

Wakura Fukko Meguru-Ichi Vol.1
和倉復興めぐる市 第一回
 2024 **11.3**日 11:00~16:00
会場 和倉温泉お祭り会館
 旅館の食器や商品を必要な方へ！
 出店旅館 加賀屋 美濃荘 多田屋 はまづる 宝仙閣
 その他、「わくたまくんグッズの販売」「復興まちづくりの取組展示」「飲食店などの出店」も予定しています。
 和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会
 お問い合わせ先 ▶ Tel: 076-767-1055 Mail: info@waka.jp

週刊 観光経済新聞
「和倉温泉を忘れないで」
 被災旅館が「復興市」イベントを今後も継続
 前年同月比0.4%増加
 宿泊業、8月の売上高
 コロナ前比は3.8%増



シビックプライドの醸成

※シビックプライド：地域や自治体に対する住民の誇りや愛着。シビックプライドを高めることで定住率や新規住民を惹きつける効果が期待される

◆小学校トーク 2024年10月23日 5年生24名、6年生21名

小学5・6年生が体育館で和倉の魅力や未来について活発に意見交換。

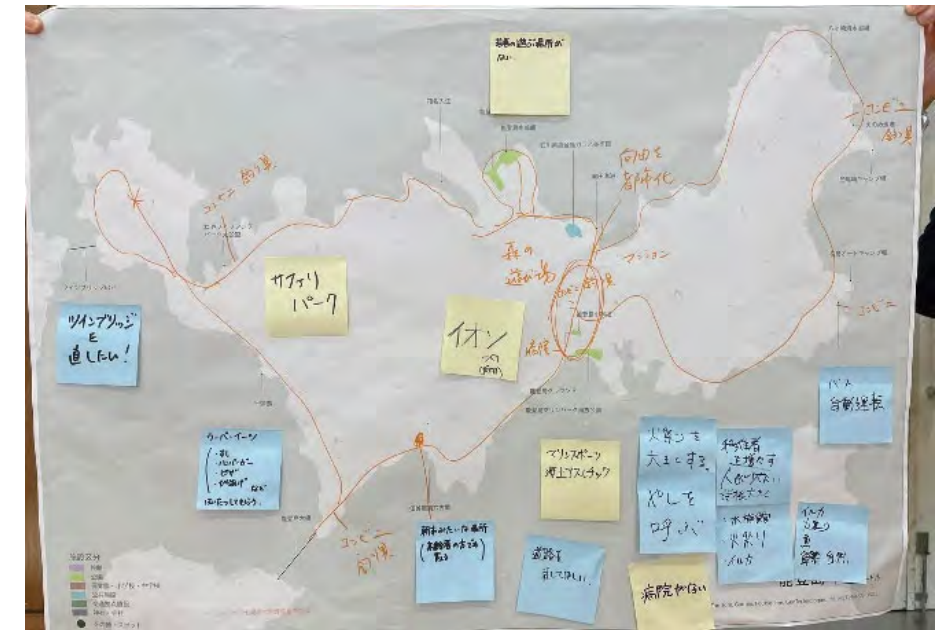
人の良さ、わくたまくん・海などを生かしたアイデアや、高校・大学、路面電車などの提案まで柔軟な発想で議論が繰り広げられた。



◆中学校トーク 2024年10月4日 2年生58名

中学2年生が体育館で石崎・和倉・能登島の未来について議論。

遊び場に関わる斬新なアイデアから、道路整備・自動運転といった具体的な提案まで、多様で個性豊かな議論が繰り広げられた。



小学生・中学生が共通してあげた和倉の魅力は「人の優しさやおもてなしの心」といった和倉の人の良さであった

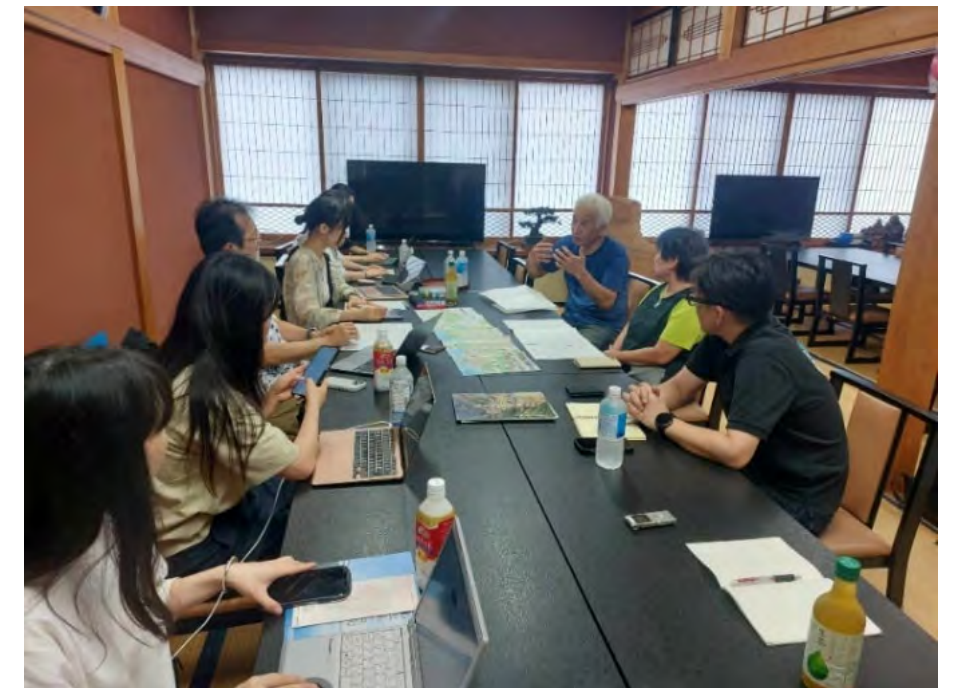
オーラルヒストリー調査

※オーラルヒストリー：現存する人々から過去の経験・体験を直接聞き取り、記録をまとめる調査研究手法。

- ◆東京都立大学川原研究室と協働し、和倉温泉や七尾市内等、地域に縁のある方11名へインタビューを実施。
2024年9月3日-5日にオーラルヒストリー調査を実施。
⇒2月に冊子完成予定。

【インタビューリスト（敬称略）】

瀬川勇人	民宿せがわ 主人
濱田晃端	青林寺 ご住職
本田雄志	和倉社会福祉協議会会長
小泉孝史	和倉温泉総湯 (和倉温泉合資会社社長)
帽子山定雄	渡月庵
刀祢修	能登すしの庄信寿し
森山外志夫	七尾自動車学校 会長
竹内大生	株式会社大生 代表取締役
多田 佐永子	多田屋女将
平野 正樹	和倉温泉旅館協同組合
田中 道夫	ホテル海望



地域の人が、これまで大切にしてきた和倉の歴史や地域性を聞き取り
他にはない「和倉らしさ」を再発見して復興まちづくりに活かします

サステナブルな和倉エリアの創出

◆地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業

2024年10月15日(火)~17日(木) 熊本・長崎視察

目的：「めぐるちから」を実現したサステナ側面の姿・魅力の実現方法の整理



10/15 蘇山郷 社長 永田祐介氏(観光協会長)
熊本県内牧温泉における地域でのサステナブルツーリズムと復興の取組みについて



10/16 九州産交ランドマーク 社長 渡邊晋司氏、日建設計執行役員 廣瀬元彦氏
九州産交アドバイザー 杵鞭久氏(当協議会事務局アドバイザー)、日建設計 中島 直弥氏



10/17 長崎市ゼロカーボンシティ推進室 室長 小川清司氏
長崎市のゼロカーボンシティの取組みとサステナブルツーリズムについて



10/16 黒川温泉旅館協同組合 事務局長 北山元氏
熊本県黒川温泉における2030年ビジョンとサステナブルな取組みについて



10/17 リージョナルクリエイション長崎 今井弘太氏
ジャパネットHDアドバイザー 杵鞭久氏(当協議会事務局アドバイザー)
長崎シティスタジアム建設における省エネ対策およびファイナンスについて



新しいことが生まれる場づくり

◆まちづくりDrinks：和倉のまち、将来ついて楽しく話す

2024年7月26日、8月26日(月)、9月24日(火)、10月28日(月) ⇒ 今後も継続開催予定

目的：なにか一つでも新しい取り組みを生み出す



(仮称) 和倉温泉創造的復興プラン(案)

温泉文化の継承とまちの課題

ゾーニング

動線計画

主要施設の将来イメージ

01 歴史/風土/文化を継承し、次世代につなぐ創造的復興を目指す

◆歴史資料(絵図・絵葉書・パンフレット等)

●和倉温泉御案内(表面)



●和倉と七尾中心街・能登島・石崎・田鶴浜・中島のつながり

●日本第一 和倉温泉案内 吉田初三郎式鳥瞰図関連データベース



●和倉温泉観光協会パンフレット
国定公園・能登半島 海の和倉温泉



●海と山の親しい関係が和倉の魅力

●絵葉書

「(上)北陸路」「(下)和倉温泉より能登島を望む」



●風土に根差した素材(黒瓦)が形成するかつての伝統的街並み

●和倉温泉御案内(裏面より抜粋)

「(左)少彦名神社」「(中央)御便殿」「(右)和倉温泉埠頭」



社 神 那 古 比 少



(り 寄 立 御 時 當 の 子 太 皇 皇 天 正 大) 殿 儀 御



景 観 街 並 和 倉 泉 温

先人たちが大切にしてきた海と山、自然の循環がもたらす温泉地域としての歴史・風土・文化的価値を継承し、これからの時代を見据えた新たな温泉街として、次世代につなぐ創造的復興を一丸となって目指します

◆まちの課題

(和倉温泉創造的復興ビジョンR6.2より抜粋)

- **景観改善の必要性**
(歩行空間・回遊性、海と島への眺望、施設整備、夜間景観整備など)
- **温泉文化の継承**
- **持続可能なビジネスモデル、地域住民との方向性の共有**
- **奥能登地域連携の強化・安全・安心なまちづくり**
(避難場所の確保、常時・非常時インフラ拡充)



海への眺望の確保



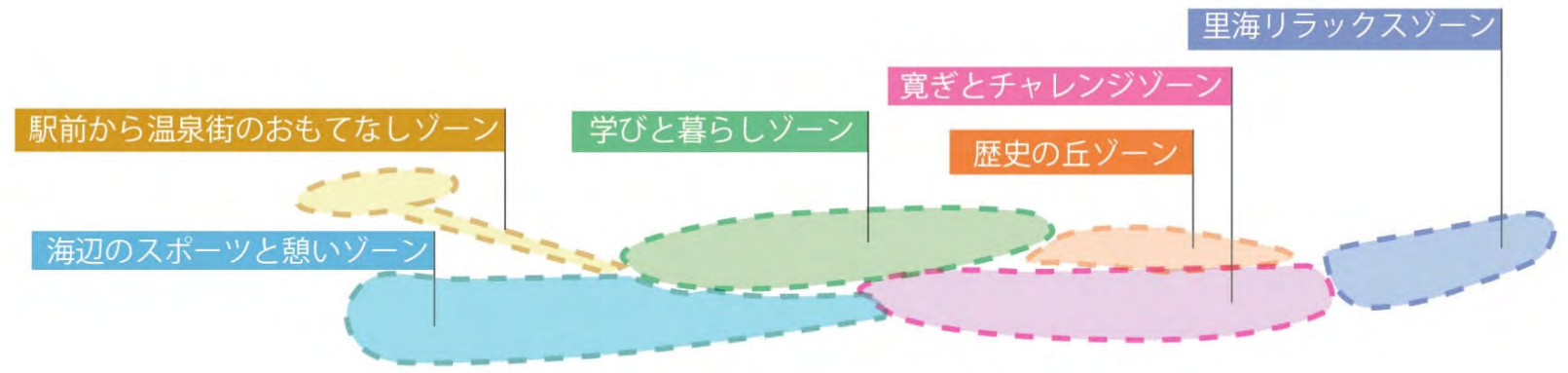
街並みに連続性がない
空地が目立つ



避難経路の確保

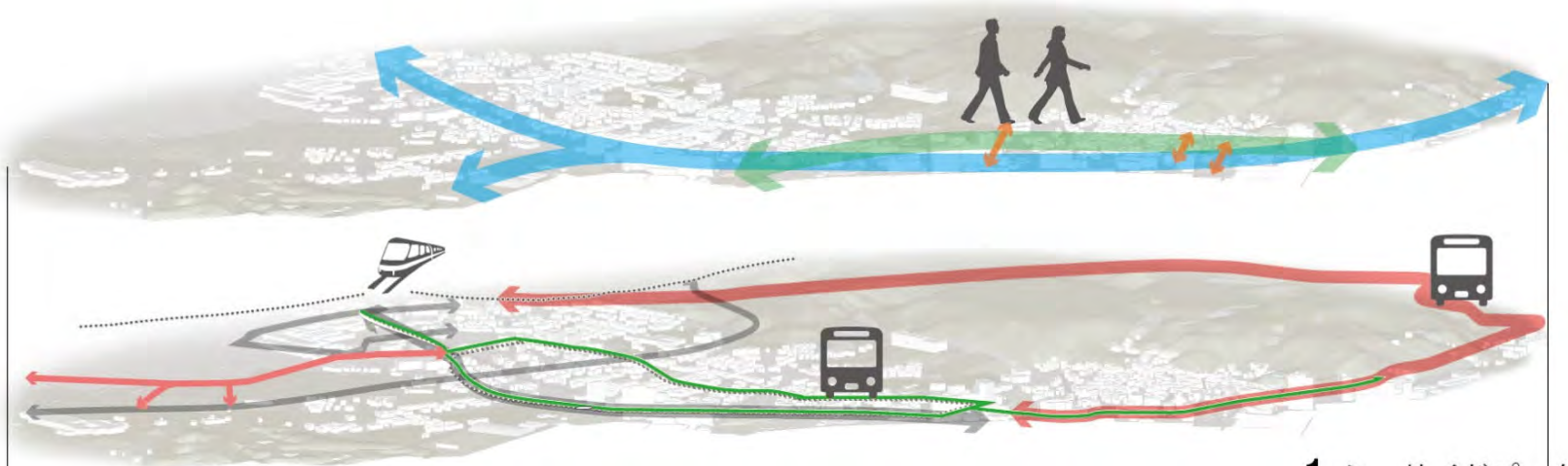
◆和倉地区周辺の都市デザイン

ゾーニング ・ 6つのゾーン



動線計画

- ・ 歩行者
 - 朝日と夕日を感じる回遊主動線
- ・ バス・一般車
 - EVバスの社会実装
 - 和倉西側バス停確保
 - 災害時の代替ルート(西側動線強化)
 - 周辺地域との連携

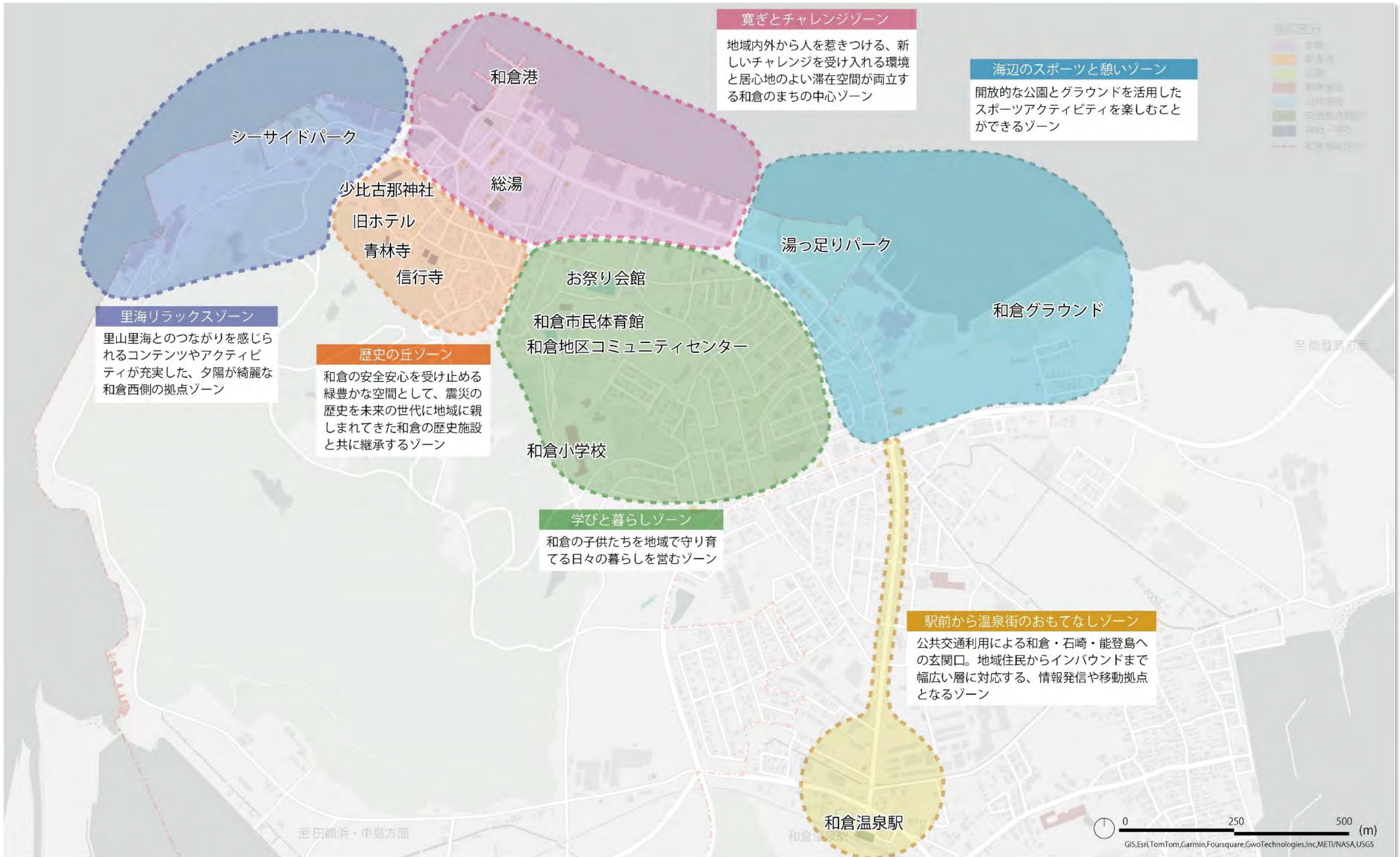


主要拠点

- ・ 8つの主要拠点の抽出
- ・ 復興ビジョン基本方針と主要拠点との接続
- ・ 空間イメージ



◆和倉地区で今後想定される改修や再開発を見据え、現在の街並みや主要施設の機能等を踏まえ、**各ゾーンの特徴について整理を行いました。**



04-1 動線計画：歩行者

◆各主要拠点を結び、朝日と夕日を感じ和倉の魅力的な風景を楽しむことが出来る歩行者主動線を設定します。



04-2 動線計画：一般車・バス

- 1
まちなか周遊ルート
 - ◆ **EVバスの社会実装**：移動ニーズへの対応と地域内のコンパクトな交通実現を目指します。
 - ◆ **西側拠点の再整備と共に新規に和倉西側のバス停確保**を目指します。
- 2
和倉環状動線強化
 - ◆ **災害時の県道の代替動線として和倉西側への幹線道路機能の強化**を目指します。
 - ◆ **周辺地域との連携**：石崎漁港などへの接続動線の強化



◆ 8つの主要拠点を設定し、創造的復興ビジョンを参照して各主要拠点で重視する基本方針を割り当てました



参照：和倉温泉創造的復興ビジョン 基本方針

歩きたくなる動線や空間をつくる。

01 景観

多様で洗練された湯治を提案する。

02 生業

循環経済の温泉地モデルを実現する。

03 共有

能登の里山里海を“めぐるちから”に。
和倉温泉



04 連携 能登の里山里海の交流拠点となる。

05 生活 温泉文化を未来につなぐ。

06 安全 安全安心の防災を強化する。

◆ 8つの主要拠点に対し、将来的に導入する施設や体験について意見交換を行いました。



05 主要拠点のイメージ

◆ 8箇所の主要拠点で想定をする導入機能や体験のイメージを、具体的な絵姿として検討を行いました。



1. シーサイドパーク周辺



2. 和倉港&湯元周辺



5. お祭り会館周辺



6. ゆったりパーク周辺

3. 湯之谷周辺



4. 総湯周辺



7. 和倉グラウンド・テニス場周辺



8. 和倉温泉駅前周辺



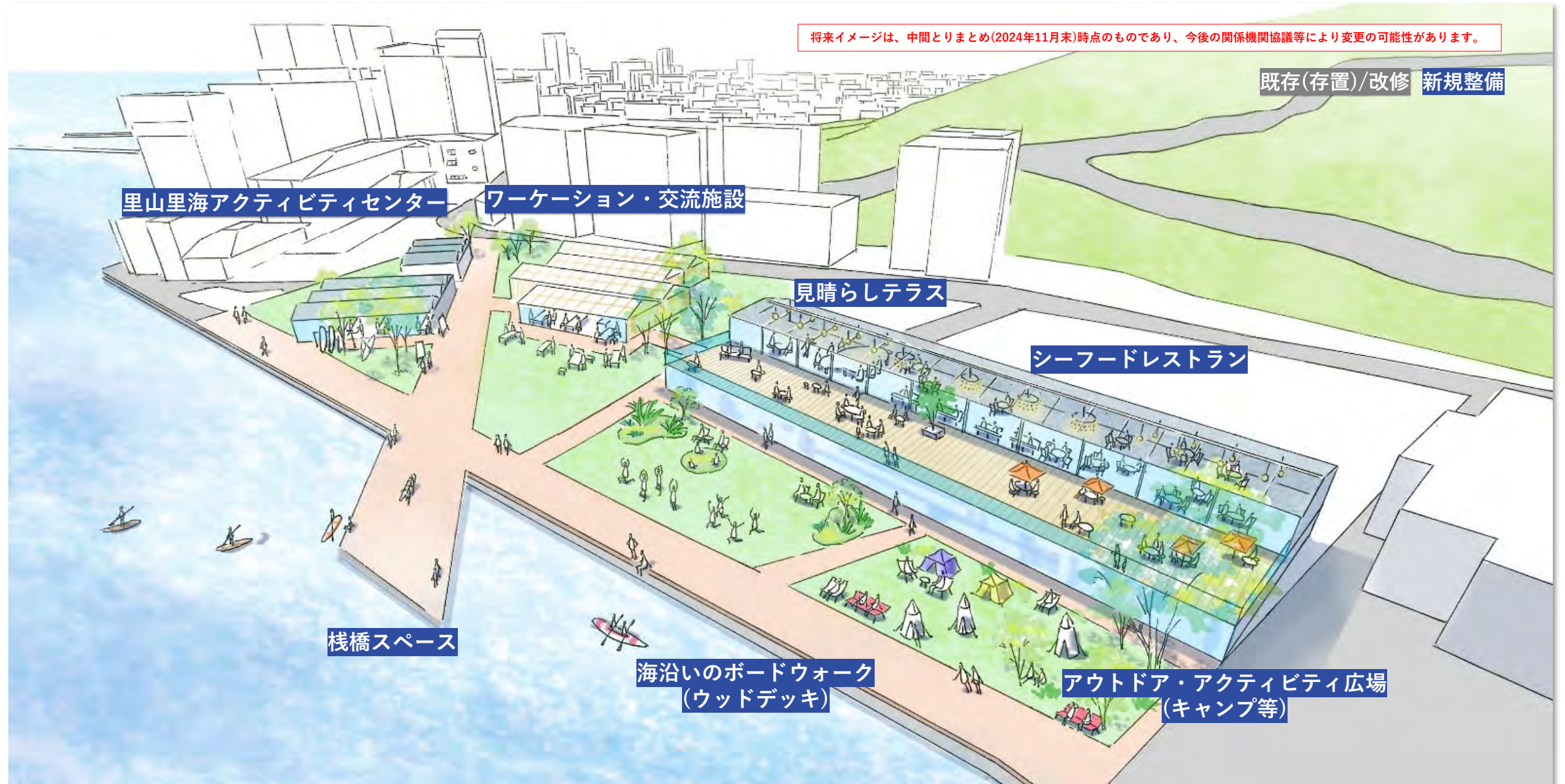
シーサイドパーク周辺

夕日を見ながら七尾湾の海の幸を楽しめる西側の観光の中心へ



基本方針に基づく取組

- 共有**
EVバスの運行、エネルギー・食材の地産地消
- 景観**
歩きたくなる歩行者空間の設え、生成りの素材を生かした自然建材の選定
- 生業**
和倉の新しい滞在モデルに対応する施設機能（泊食分離など）



主要拠点の特徴

- 傾斜のある敷地に様々なアクティビティを可能にする施設群が並ぶ
- 夕日を望む海沿いのプロムナード・ボードウォーク

想定する使われ方

- チェックイン後、夕日を見に見晴らしテラスへ
- SUPなど海でのアクティビティ
- 小中学生が里山里海アクティビティセンターで自然体験学習を学ぶ

官と民の役割

- 行政：**
広場・ボードウォーク整備、交流施設整備
- 民間：**
レストラン・アクティビティセンター運営

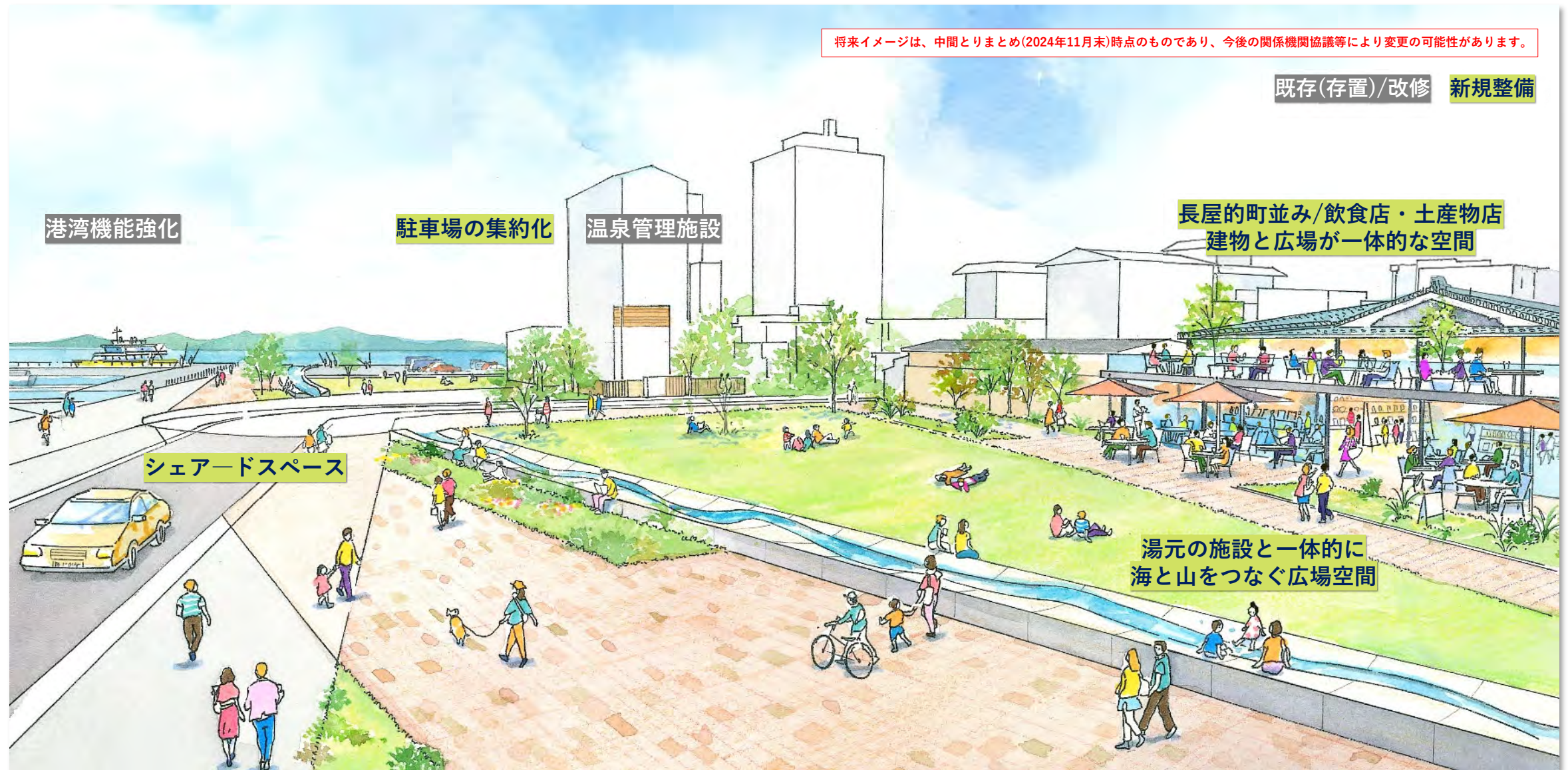
和倉港&湯元周辺

海に近い和倉温泉を象徴し、能登島や石崎とつながる海の玄関口へ



基本方針に基づく取組

- **連携**
観光コンテンツの多地域連携、周遊屋形船の運行
- **景観**
夜間ライトアップ、歴史的街並み形成のためのガイドライン整備
- **生業**
飲食店誘致、温泉湯を活かした広場空間整備



将来イメージは、中間とりまとめ(2024年11月末)時点のものであり、今後の関係機関協議等により変更の可能性があります。

※シェアードスペース：歩道と車道の分離構造を設けず、視覚的案内で自動車速度を抑制することで、歩行者と自動車が共存できる環境を創出する空間整備手法

主要拠点の特徴

- 海への視線が抜ける広場空間
- 街の顔となる歩行者空間
- 旅館駐車場の集約化

想定する使い方

- まちづくり拠点と連動した利活用イベントの開催
- 日帰り釣り客が帰りに飲食店へ
- チェックイン後に街へ出て木陰で休む

官と民の役割

- 行政：**
港湾機能の整備・道路及び広場整備
- 民間：**
飲食店・土産物店の出店・運営

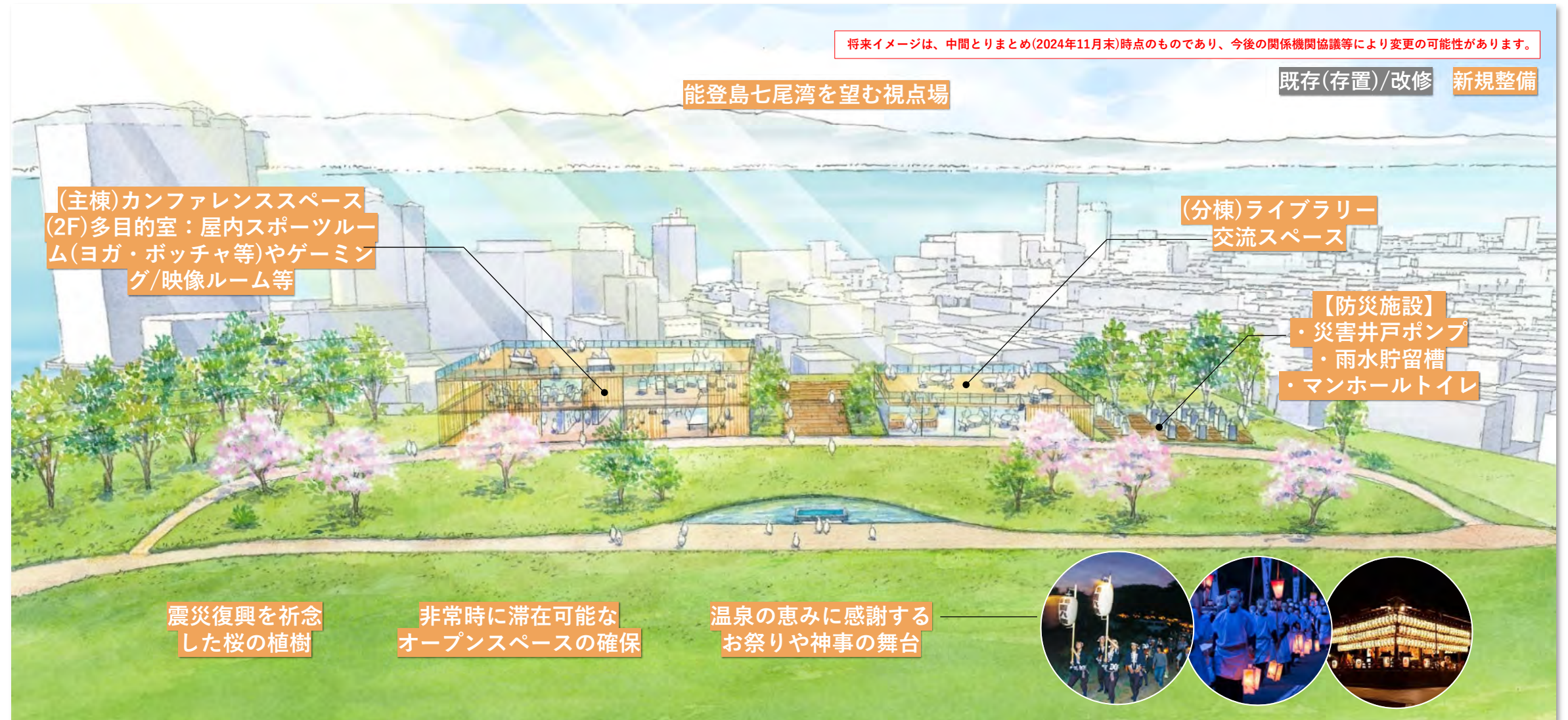
湯之谷周辺

震災の学びを継ぎ、防災機能を高めたまちのコミュニティスペースへ



基本方針に基づく取組

- **安全**
避難訓練を兼ねた南北軸の動線活用
街ごとBCP計画の策定
- **生活**
温泉文化を未来につなぐ祭りイベントの開催、温泉文化教育
- **景観**
復興のシンボルとなる植樹、七尾湾を一望する視点場整備



祭りの参考イメージ：
(左)「猪俣の百八燈」埼玉県美里町
(中央)「狐の夜祭り」新潟県柏崎市
(右)「祇園祭」京都府京都市八坂神社

主要拠点の特徴

- 和倉と七尾湾を一望する視点場
- 湯之谷伝説を継承する舞台
- 観光客を含めた大人数に対応できる高台の避難所

想定する使われ方

- ・お祭りに地元民・観光客問わず参加
- ・会議場として他地域の人々が集まる

官と民の役割

- 行政：**視点場整備、防災施設整備、コミュニティスペースの整備
- 民間：**施設の運営、イベントの企画・実施

総湯周辺

職住一体でチャレンジできる場づくり



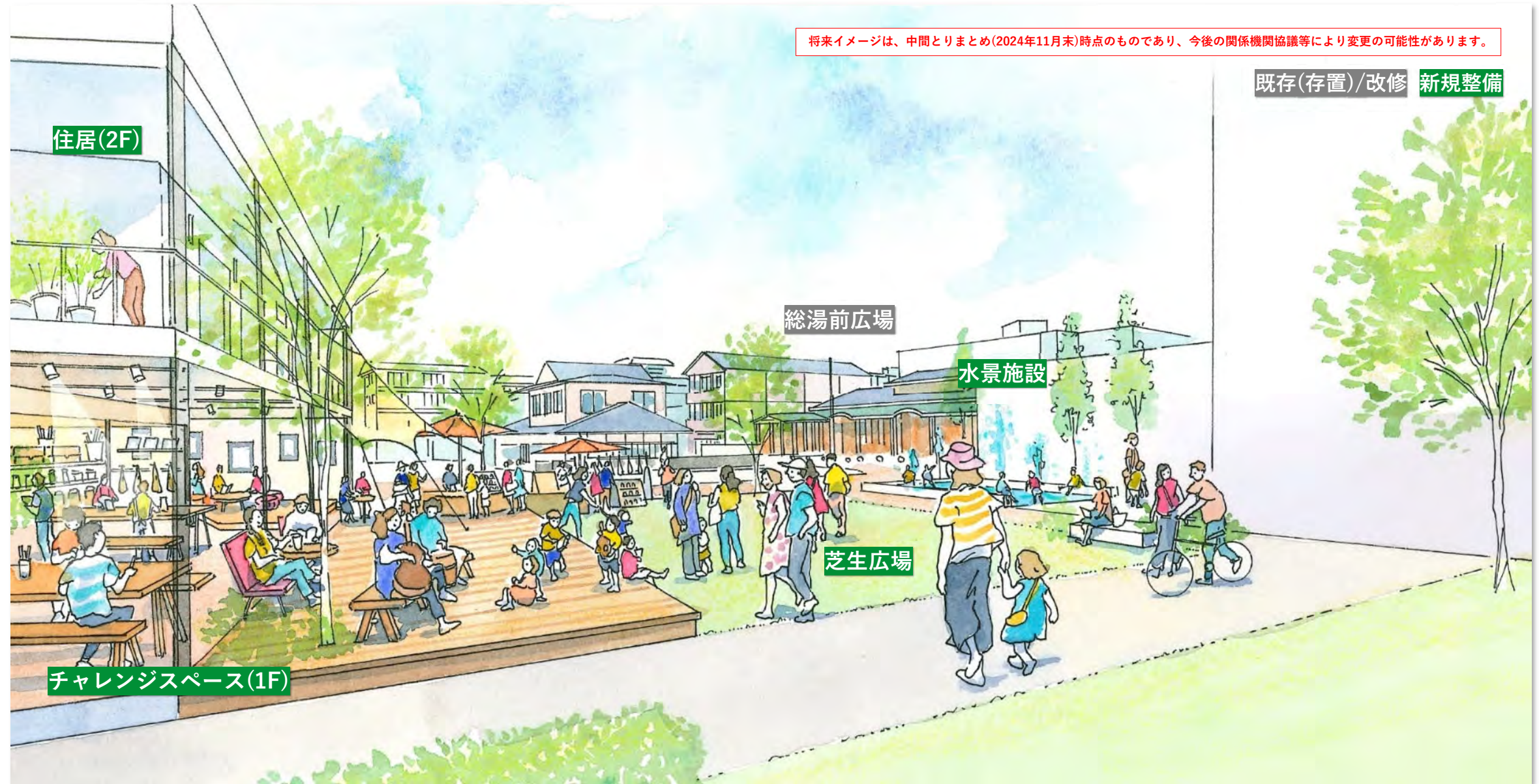
基本方針に基づく取組

■生活

街なか歩行動線の整備
観光資源としての食文化強化
チャレンジショップの出店
(少ない初期投資で立ち上げ)

■共有

観光DXを目指した情報発信、EVバスの運行



将来イメージは、中間とりまとめ(2024年11月末)時点のものであり、今後の関係機関協議等により変更の可能性があります。

※チャレンジスペース：新規開業を目指す人が本格的な開業の前に一定期間試験的に店舗を運営できるスペース

主要拠点の特徴

- 総湯を中心とした関係人口を増やす賑わい拠点整備
- 街なかの面的整備

想定する使い方

- 少ない初期投資で外部人口が和倉に定住
- 芝生広場を活用したイベント開催
- 総湯に訪れた日帰り観光客がチャレンジショップで買い物

官と民の役割

- 行政：**
新規創業支援、施設整備の支援、空地活用の支援
- 民間：**
出店者誘致、広場活用イベント企画

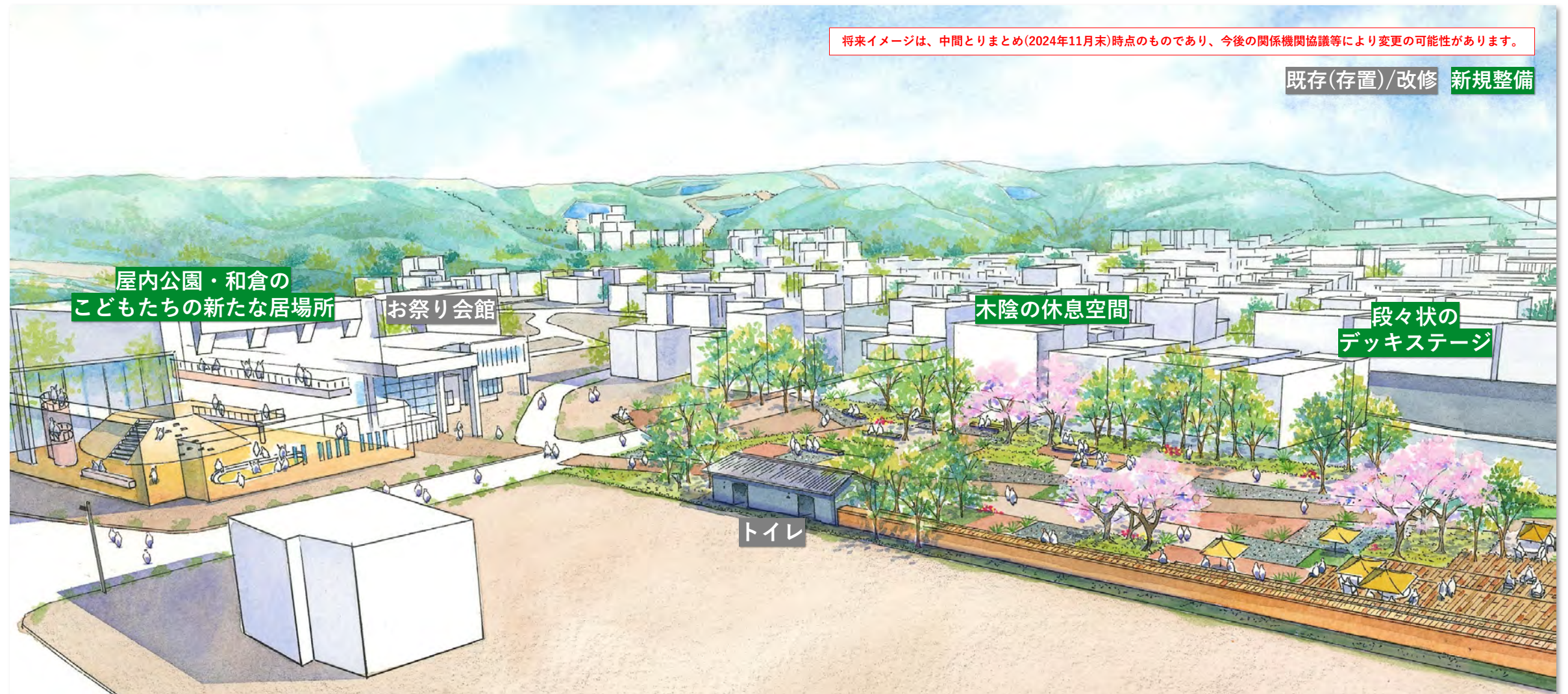
お祭り会館周辺

子どもも大人も過ごせる、屋内・屋外遊びのできるお出かけスポットへ



基本方針に基づく取組

- 生活
子どものための遊び空間
シビックプライドを醸成する祭り教育
- 安全
観光客/地元民を収容できる
避難所整備、自己水確保、
備蓄倉庫設置



主要拠点の特徴

- ・子どものための既存施設活用
- ・屋内の遊び場
- ・ママ友が交流できる子育て拠点

想定する使い方

- ・家族連れが七尾市外から訪れて飲食・買い物
- ・駅からの歩行者が段々状のデッキステージで休息
- ・地元民が木陰空間で休息、観光客との交流

官と民の役割

- 行政：
屋内・屋外の施設整備
- 民間：
屋内・屋外公園維持管理、利活用イベント企画・運営

湯っ足りパーク周辺

海を見ながらのんびり過ごせる、和倉温泉のおもてなし空間へ



基本方針に基づく取組

- **景観**
 - ・海沿い歩行動線の整備
 - ・七尾湾の景観に配慮した植栽計画
- **生活**
 - 屋内で休める空間整備
- **生業**
 - 芝生広場における利活用
 - イベント運営
 - 小規模飲食店の出店



既存(存置)/改修 新規整備

主要拠点の特徴

- 海が見通せる海岸公園
- 和倉に来たと思える玄関口となる広場

想定する使われ方

- チェックインまでの新たな過ごし方の提供
- 地元民が海を眺めながら犬の散歩
- マルシェ出店
- 海沿いの休息・交流施設でコワーキング

官と民の役割

- 行政：**
 - Park-PFI等の検討、公園の維持管理
- 民間：**
 - 休息・交流施設の運営、イベント企画

和倉グラウンド・テニス場周辺

スポーツを中心とした新たな過ごし方が生まれる場所へ



基本方針に基づく取組

■ 連携

全国の合宿を受け入れられる宿泊施設整備
学生同士の交流を促す交流拠点整備

■ 景観

夜間ライトアップ整備
和倉温泉運動公園への動線美装化

■ 安全

熱中症対策・災害対策の充実したスポーツ拠点整備



主要拠点の特徴

- 七尾を代表する屋内スポーツ拠点整備
- 他地域からの合宿を受け入れられるスポーツ施設

想定する使い方

- サッカー場で県大会規模の大会開催
- 七尾市内の人々がフットサル場を利用
- 和倉町民がスポーツ大会を観戦
- 観光客が水辺のマリンスポーツを楽しむ

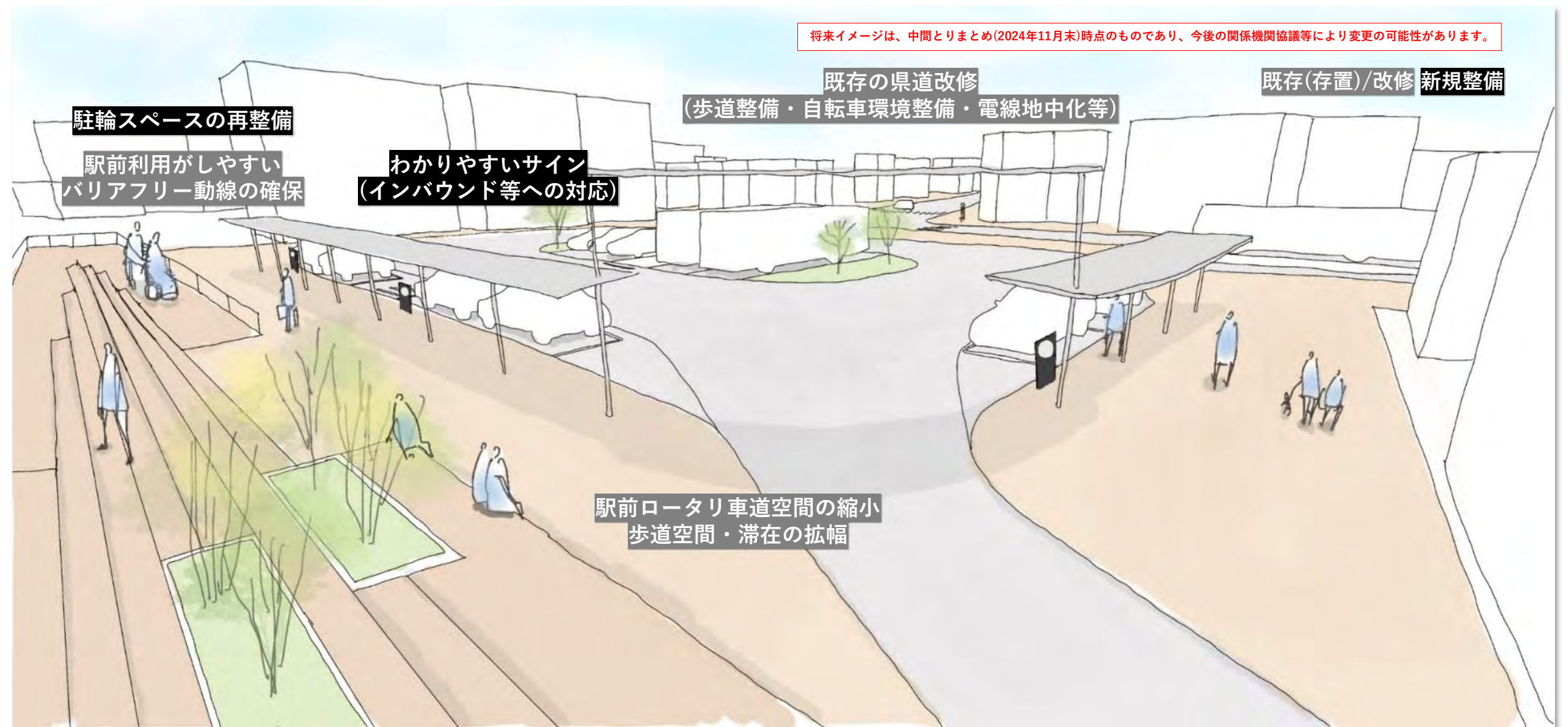
官と民の役割

- 行政：** 防災施設整備、スポーツ拠点の機能強化
民間： スポーツ施設運営、スポーツ合宿・大会の企画・運営

和倉温泉駅前周辺

和倉の玄関口として、だれもが利用しやすい駅へ

将来イメージは、中間とりまとめ(2024年11月末)時点のものであり、今後の関係機関協議等により変更の可能性があります。



基本方針に基づく取組 (仮)

- **連携**
観光情報以外の駅舎機能の実装
- **景観**
駅前広場の美装化
- **生活**
勉強ができる駅舎内フリースペース整備

主要拠点の特徴

- 温泉街の空気を感じられる駅前空間
- 旅館減築に伴うロータリー空間の縮小
⇒滞在空間の拡幅
- インバウンドへ向けた情報発信機能

想定する使い方

- 電車待ち時間に階段状の滞留空間でくつろぐ
- 高校生・観光客が使いやすいサイクルスポットとしての活用、放課後に駅舎内スペースで勉強
- タクシー乗降・送迎車乗降

官と民の役割

- 行政:**
駅前広場の整備、維持管理
- 民間:**
駅舎内フリースペースの運営

- ◆ 本提案は復興まちづくり推進に向けた推進協議会による提案です
- ◆ 今後、(仮称)和倉温泉創造的復興プランを議論のたたき台として行政機関との対話を行い、プロジェクトの具体化に向けて取り組みます

R6
11/28

協議会作成の(仮称)和倉温泉創造的復興プラン【中間発表】

検討部会 | まちづくりのルールや能登共創に向けた取組の検討
行政との対話 | 事業の仕組みの検討やすり合わせ(優先順位・財源等)

R7.3
公表

(仮称)和倉温泉創造的復興プラン

R7年
4月

行政・民間での継続協議 > プロジェクトの具体化

この和倉温泉の未来を描く「**和倉温泉創造的復興プラン（中間発表）**」は、2月に策定した「和倉温泉創造的復興ビジョン」を具体化するため、若手の旅館や商店経営者が毎月議論を重ね、さまざまな共創プロジェクトを実施して作成したものです。

和倉温泉は、穏やかな七尾湾に面し、**国内でも珍しい海水温泉を誇る歴史ある温泉地**です。昭和期には大型旅館が立ち並び、館内でお客様のニーズを完結できる利便性が特徴でした。しかし、近年は団体客から個人客へのニーズの変化やインバウンド対応の遅れにより、**まちのにぎわいが失われつつ**あります。

そこで、能登半島地震で被害を受けた和倉温泉の復興を、「和倉温泉のあるべき姿」に向けたチャンスと捉え、温泉文化を継承し、次代を担う子供たちにつないでいく、**未来に向けた希望と強い決意を込めた「フロートビジョン」**を描きました。

このフロートビジョンは「なぜやるか（WHY）」「何を（WHAT）」「どこでやるか（WHERE）」に重点を置いた将来像であり、地域の皆さんとこの未来像を共有し、行政と民間の連携を進め、地域内外からともに関わりたい人、投資したい人に向けた価値や魅力的なシーンを描く提案です。

完全な復興には10年以上を要するかもしれませんが、この中間とりまとめの後、**行政（国、県、市）が何をやるべきか、旅館や個々の事業者が何をすべきか、興味を持ってくれそうな人は誰かなどを具体的に検討するフェーズ**に入ります。

和倉温泉が本来有している資源や価値を再認識し、一緒に和倉温泉の新たな未来を創りましょう。

能登の里山里海を
“めぐるちから”に。

和倉温泉

